



特別
凡
4735





8408

八

門
號 4735
卷

序

中 天下二統二治り四海也
 靜 二テ吹風枝ヲナラハス六
 拾余品ノ四夷八蠻マテ七我
 日日ノ神武ノ徳二十ワキ居
 子困ノ威風イ子ニシルニココニ



日本ノ東北ノ方ニ當テ殿
夷卜井工凡困百是則中
萃朝鮮ノ外二三テ是迄
從卜知多流記録七十三困風
去土座人物逆知凡人十三記
録七十三困風 并コノ書ハ
松前志磨守殿ノ通事
中西即右衛門直々口
ヲ双テ少七無相遠書
ツノ夷蝦壽各子卜題
ヲ和ニ又

元文元年五月日

松前偶居

此屋後仍繩床

販賣手帳の書き方

目録

一 販賣手帳の書き方

所収七五九物の書き方

一 國産割込の書き方

所収五七九物の書き方

熊夷の地

改てた物の事

抄



人衆皆海邊の境ふありて其補と業と

耕作の地と熊夷地と松原の境の境と

浪の地と岩を郷の四澤と新東と其智古

赤羽の地と其の地を川を其礼志

急と人向 目上の事 と入るやと熊夷人

とよの女はあまのまこと



女はあまのまこと
草花のまこと
あまのまこと
あまのまこと
あまのまこと

一、ゆ、服、女、年、真、納、り

志、替、る、眼、目、身、之、小、女、の、ら、七、他、の、是、也、也、と
あ、ま、の、ま、こ、と、時、は、け、さ、ま、も、あ、ま、の、ま、こ、と
あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と
改、め、ゆ、す、人、別、也、人、別、也、の、も、明、也、也、と
あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と
あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と
あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と
あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と
あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と、あ、ま、の、ま、こ、と

この書は... 花の... 波乃... 國平一判法の事

所記の事

花と... 波乃... 國平一判法の事

お酒をいけしと揚屋の葉はさるるり ねもさ
入たるおの代をさるるるるるるるるるる
たやーるるるるるるるるるるるるるる
たもおの代持付くー 揚屋ををさるる
道具ののさるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
富物さるるるるるるるるるるるるるる
遊影さるるるるるるるるるるるるるる
はるるるるるるるるるるるるるるるる
一切のー 揚屋の代をさるるるるるる
事ハ笑を葉ののさるるるるるるるる
さるるるるるるるるるるるるるるる
さるるるるるるるるるるるるるるる

揚屋の葉はさるるるる

帳簿のつくりかた

目録

一 帳簿のつくりかたの事

二 帳簿のつくりかたの事

帳書入るるの事

所或家の事

天と 月と

地と 日と

日と 月と

月と 星と

星と 天と

天と 地と



河内
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

海

河

門

流

磯

風

石

雲

西

東

山

南

白

石

石

石

海

河

門

流

磯

風

石

雲

西

東

山

南

白

石

石

石



道に...
世の...
く事...
かた...
合戦の...
と...
—

服表...
...

惟夷少水子巻之三

目錄

- 一 日中と名をがする事
- 一 治夷の事
- 一 寛文年中一揆の事
- 一 治夷の事

瑞花



Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript or a collection of poems. The text is arranged in vertical columns on both pages of the open book. The script is cursive and dense, with some words appearing to be in a different dialect or language, possibly Persian or Urdu, given the context of such manuscripts. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

櫻夷沙形子巻之四

目録

一 沙皇沙元者之事

一 所々鬼をまらる事

一 鬼をまらる事

一 所々をまらる事



中文原部、抄録とらん、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

抄り、抄り、抄り、抄り、抄り、抄り

の六拾人
の十

報表

報表

目録

報表

報表

報表

報表

目録
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、



下呂女賣
鮎の炙り
運送
舟

五國の藩士と集りて其の旨を以て終節を
おとすべしと申す事なるを以て其人等
彼等へ入るはたすべし其の旨を以て
く路ありては其の旨を以て申す事
終りにては其の旨を以て申す事
いかに其の旨を以て申す事
定むる事なるを以て申す事
おとすべしと申す事なるを以て申す事
清徳軒といふ事なるを以て申す事
と申す事なるを以て申す事
日と申す事なるを以て申す事
おとすべしと申す事なるを以て申す事
多しと申す事なるを以て申す事
其の旨を以て申す事なるを以て申す事
河と申す事なるを以て申す事
物と申す事なるを以て申す事

道にたのむるはまはるくありしもの世にたのむる
ありしはまはるくありしもの世にたのむる
ありしはまはるくありしもの世にたのむる
ありしはまはるくありしもの世にたのむる

柳菴先生の書

六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

